

# 神奈川学園は「リーディング・プログラム」を始動します！

2024. 03. 22

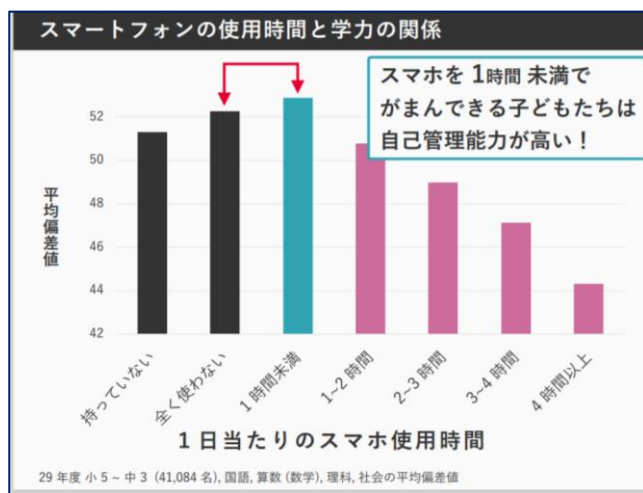
神奈川学園では、2024年度より、独自の「リーディング・プログラム」を開始します。

これは、学力と読書、ICT使用の関係を脳科学の視点から研究を続けている、東北大学の榎浩平先生を学習アドバイザーにお迎えし、読書とICT機器利用を意識的に見直すことで、学習力を伸ばす取り組みです。

榎先生は、仙台市4万人の児童・生徒の経年調査を通して、読書習慣とICTの自制的利用が脳の成長と学力伸長に関係していることを科学的に明らかにしてきた方です。この研究に基づいた書籍も何冊も執筆されています。

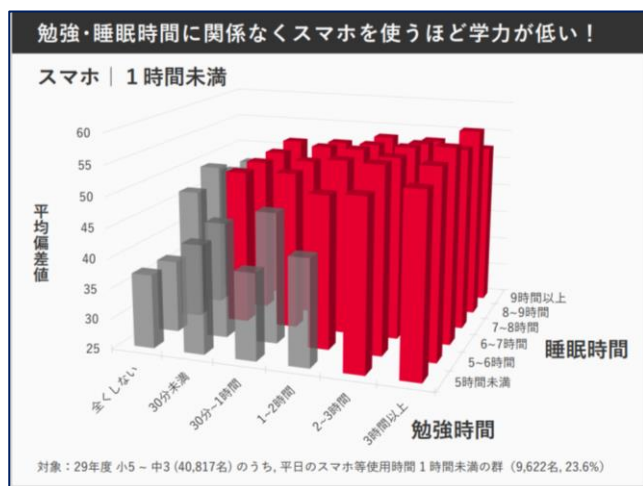


本校はこれまで、読書を大切に位置づけてきました。その取り組みを科学的な分析も加えつつ、いっそう強く推進します。同時に、ICT機器の自覚的利用ができる力を育成します。

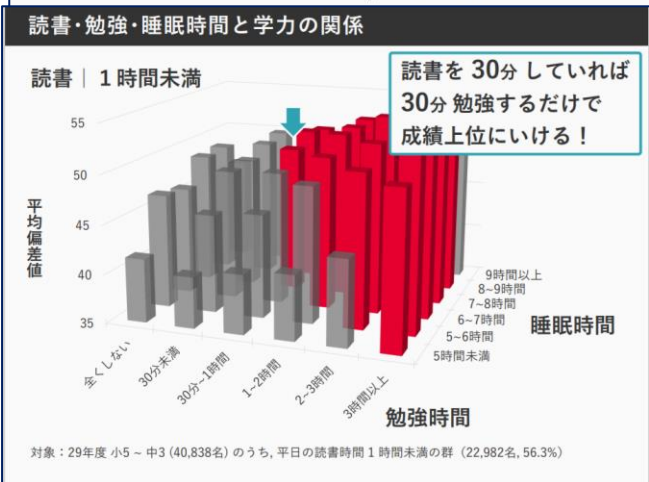
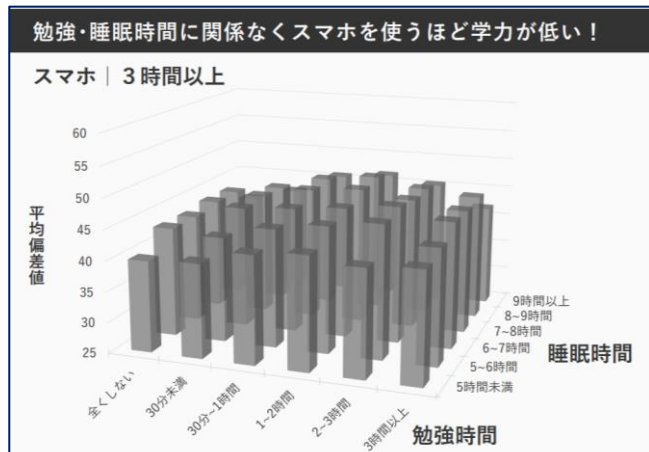


左は、榎先生から提供していただいた資料です。

一つめのグラフは小中学生（小学校5年～中学校3年）を1日あたりのスマートフォン使用時間ごとにグループ分けし、それぞれ児童・生徒の全国学力テストの平均偏差値を対比したものです。「1時間未満」のグループが最も偏差値が高くなっています。「持っていない」「全く使わない」グループより高くなっていることにはやや意外な印象も受けませんが、榎先生はスマートフォンを持っていながら、使用を1時間以内で制御できる、自己管理能力の高さにその要因があるのではないかと分析しています。



二つめのグラフは今述べた「スマートフォン1日1時間未満」のグループの学習時間と睡眠時間の関係と学力状況を表したものです。赤い



棒は偏差値 50 以上を示しますが、睡眠時間さえしっかりととってれば、たとえ**学習時間は短くとも、平均以上の偏差値をとっている**ことがわかります。

一方で、三つめのグラフはスマートフォンを1日3時間以上使用している児童・生徒のグループですが、こちらは**何時間学習しても平均偏差値は50を超えない**という調査結果が出ています。

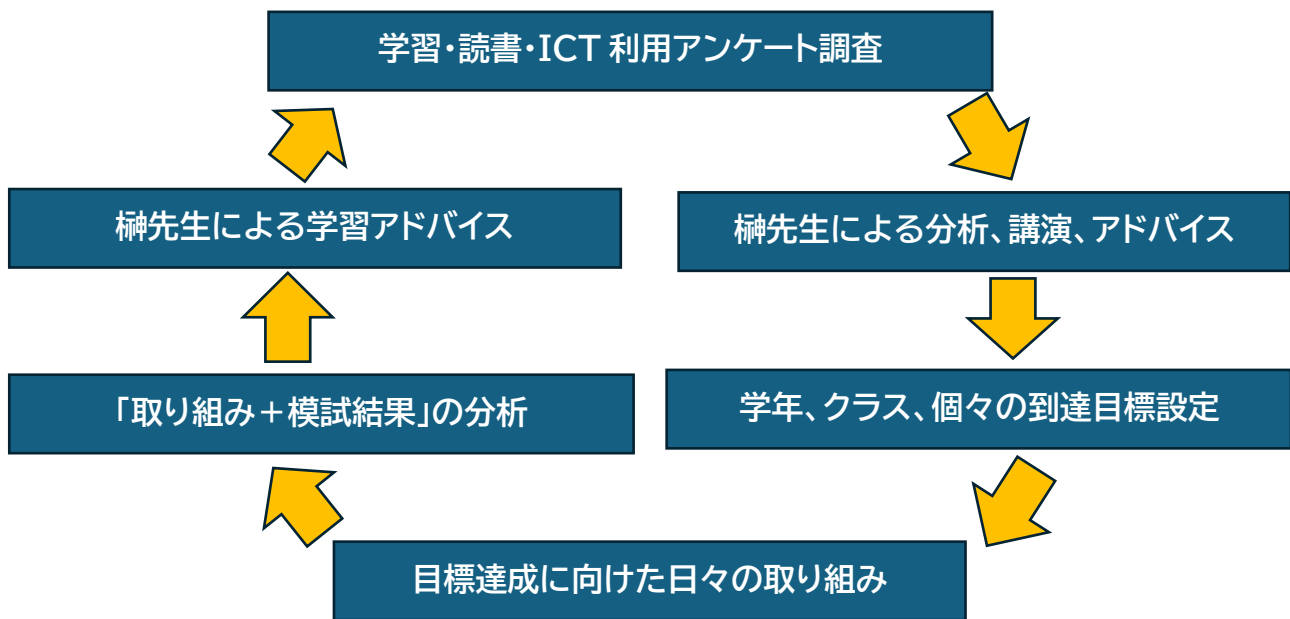
最後に四つめのグラフですが、こちらは**読書時間と学習時間・睡眠時間と学力の相関を調べたもの**です。1日に1時間未満でも読書をする児童・生徒は、**30分程度の学習時間でも平均偏差値が50を超えている**ことが見て取れます。

本校では「**読書**」を、今述べたような「**学力**」の土台という面でも、またICT機器と容易につながることでできる現代だからこそ、**自分と向き合い、内面的な成長につながる時間としても大切に位置づけてきました**。そして、これまでの「朝の読書」に科学的視点を取り入れながら「リーディング・プログラム」として、再スタートします。

具体的には以下の取り組みを半期、もしくは年間を目安に実践します。

- ①読書やICT機器利用に関するアンケートを通して実態を調査
- ②榊先生による実態分析と今後の取り組みについて、生徒・保護者へ講演・アドバイス
- ③学年やクラス、個人で、今後の取り組み目標（読書・ICT）を設定し、実際に取り組む
- ④模試などのデータと、読書・ICT利用状況データを重ねて分析、個人と全体的傾向を把握
- ⑤上記④に基づき榊先生から定期的にアドバイスをいただき、生徒・保護者へフィードバック
- ⑥上記の取り組みを通して、実態の変化を再度アンケート調査、課題を再分析

アンケート調査はすでに実施し、現在、榊先生の分析が進んでいます。その分析をもとに24年度早々に、生徒・保護者への分析報告とアドバイスの講演会を行うところから、神奈川学園のリーディング・プログラムが本格的にスタートします。



【榊先生の著作】

榊浩平（著）川島隆太（監修）『スマホはどこまで脳を壊すか』（朝日新聞出版）

松崎泰・榊浩平（著）川島隆太（監修）『最新脳科学でついに出了結論「本の読み方」で学力は決まる』（青春出版社）